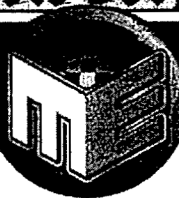


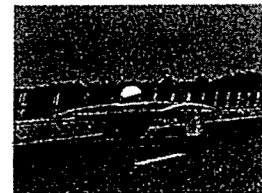
篠塚「学生が奇跡起こした」



東海大学ソーラーカーチーム
「2019グローバル・グリーン・チャレンジ」
優勝報告会

オーストラリア大陸を縦断する世界最大規模のエコカーレース「グローバル・グリーン・チャレンジ」(10月24日-31日)のソーラーカー部門を制した東海大学チャレンジセンター・ライイトパワープロジェクトは4日、都内で優勝報告会を開いた。同大は前身の大会を含めると4度目の挑戦での初制覇。目標はトップ3入りだったが、25日にタイウインをスタートした初日からトップに立ち、約3000kmを走破してフィニッシュした。ライバルよりも1日早い28日だった。

豪大陸縦断 世界最大エコカーレース



豪州のソーラーカーレースで快脚に飛ばす東海大チーム(東海大提供)

徹夜の準備であるレースが始まるまではまさに悪戦苦闘だった。車両製作の遅れに始ま

大きなトラブルなし 3000kmひとり旅

り、24日の予選でもトラブルが発生して満足に走れず、学生らはまさに徹夜の連続だったという。が、25日に豪州ダーウィンをスタートすると問題ははばたきとおさまった。メカニズム的にはロスがなかった微細なトラブルが1回、そして4日目にバンクで8分ほどロスしたのみ。終わってみれば圧倒的な速さで3000kmを走破し、2位以下より1日早い28日にはフィニッシュに到着する圧勝劇だった。

「奇跡が起きた」としか思えない結果。夏休みを返上して徹夜を続けた学生の頑張りや奇跡を起す「うたのだ」と題した「言葉でしようね」。スニアリングを握った同大OBでライードライバーの篠塚建次郎は感慨深げだ。

平均時速100km超

優勝候補は大会4連覇中だったオランダの又オン社の支援を受けるデルフト大学だったが、初日のトラブルで大きく遅れたことが響いて2位とまわり。そんなことも追い風となったが、東海大はシャープから提供を受けたソーラーパネルが世界最高水準のエネルギー変換効率を誇ったことなど、3000kmを走破した平均時速が唯一100km超オーバーする速さが光った。

「太陽電池の出力がトップだったのが一番。それに車体、空力、バッテリーなど多くの企業からサポートを得た各分野でもトップレベルでした。学生もスタートまでにいサムアップして優勝を喜ぶ篠塚建次郎(後列右から4人目)と東海大チーム(北村彰撮影)」

東海大ソーラーカー「世界一」報告会

い意味で苦境を乗り越えたも大きかった。プロジェクトアドバイザーを務める東海大工学部電気電子工学科の木村英樹教授は、予想外の圧勝をその分析した。(田村尚之)